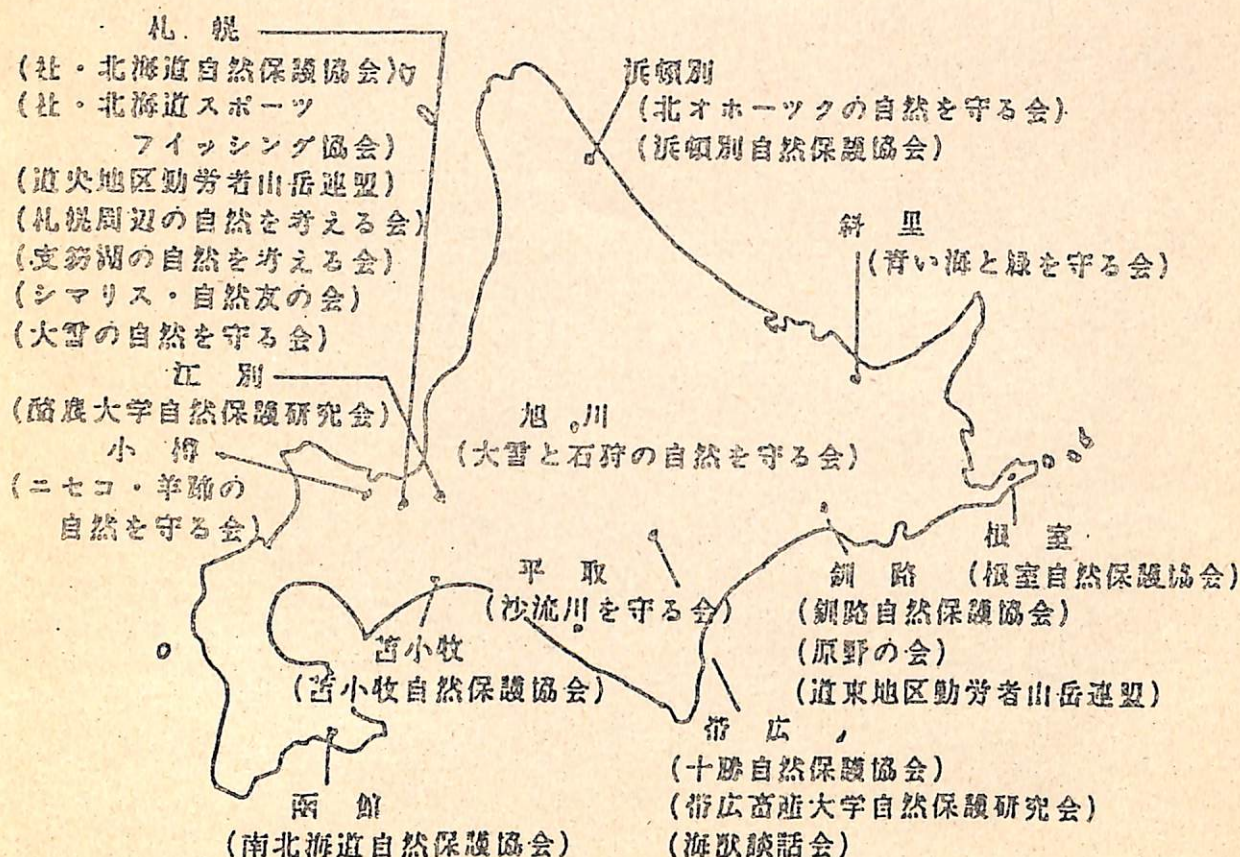


北の自然

第26号

1985年10月20日



狙われている聖域・その1 支笏湖レジャー基地

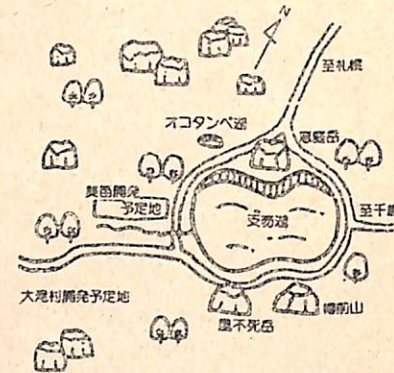
◎観光開発の名のもとに

国立公園が誕生して、今年で五十一年。半世紀をむかえたわけです。北海道には、阿寒・大雪山(昭和九年指定)、支笏洞爺(昭和二十四年)、知床(昭和三十九年)、利尻・礼文サロベツ(昭和四十九年)の五ヶ所。これら国立公園はいずれも自然公園法に基づいて指定されています。同じく自然公園法により、国立公園に準じて指定されるのが国定公園。わが国最大の面積をもつ日高山脈襟裳は昭和五十六年に、やっと国定公園に指定されています。国立・国定合わせて九ヶ所、六四九・四三八ヘクタールに及びます。

聖域ともいえる保護区・国立公園が観光開発・道路・ダム・森林伐採などによって、脅かされていきしたのは、今にはじまったことではありません。美しい自然の影に、必ずといっていいほど破壊の爪跡がきざまれています。

そして今、再び国立公園が集約的に狙われています。観光開発が可能な場所は公園しか残されていなく。本州

計画は、大滝地区と美瑛地区とに分けられ、両地区を合わせて通年観光を図るというものです。大滝地区は、対象面積四五〇ヘクタール。白老岳西斜面にスキー場(リフト六基・ハコース)、レストハウス、ロッジ、駐車場、展望台、テニスコート、ペンション村、自然勝路(森林浴)など。どんな遊び(スポーツ)ができるのかというと、スキー、クロスカントリ、ボブスレー、スノモトビ、フィートドオートチェリ、ターゲットオートチェリ、サイクルスポーツなどなど(全てカタカナ、この種のものはもっとわかりやすく書いて欲しいものです)。

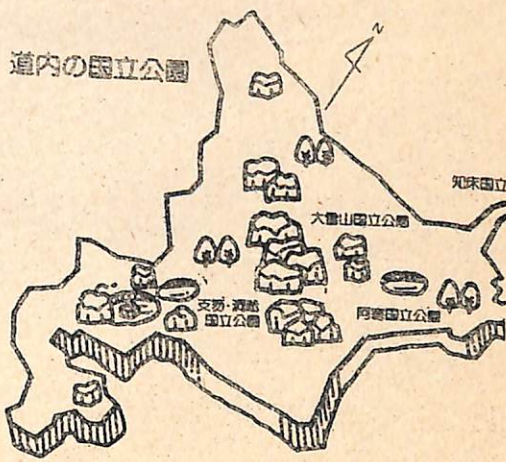


美瑛地区は、約一六一ヘクタール。支笏湖西湖畔に接する地域です。ここでは、公共施設区(レストハウスなど)、宿泊施設区(三百名収容のホテル・ブールなど)、運動施設区(テニスコートなど)、園地区(広場、山草園など)、に区分されています。

問題となるのは、一つに国立公園という保護区であること。二つ目に白老岳周辺は保安林の指定をうけており、重要な水源涵養林となっていること。この周辺を水源と

はすでに飽和状態、北海道しかないといえないでしょうか。支笏洞爺の「滝」環境資源振興計画がそれです。

酷似した計画が大雪山の美瑛富士にもおきています。

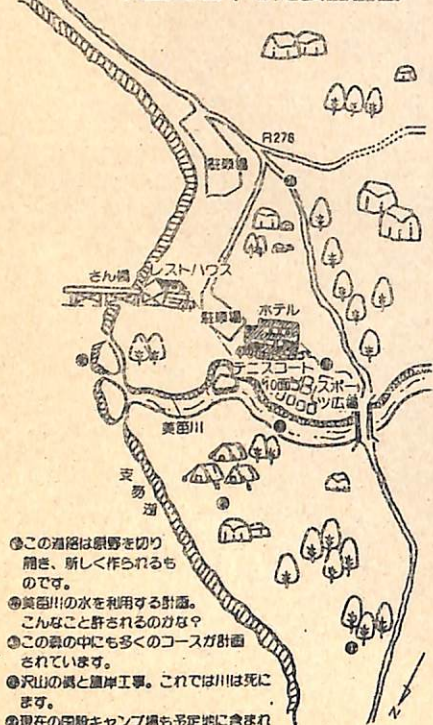


◎支笏湖が狙われている

滝環境振興協議会の計画概要書(昭和五十八年九月一日現在)によると、発端は、千歳市の昭和五十六年度から一〇ヶ年でスタートさせた「千歳市第三期総合開発計画」にあり、この中で支笏湖周辺の観光開発を打ち出しています。しかし、市単独の開発が無理となるや、隣村の大滝、日本航空、ヤマハ(日本楽器製造)の資本参加を与て、今はやりの第三セクターを設立しようとした。

する川が数多くあり、森林伐採による洪水などの危険があります。三つ目に、支笏湖の水質汚染。現状でさえ汚染が進む中、大規模レジャー施設の出現により、一層悪化すること。そして最後に、おいしいところ(利益)の大半は、本州資本にもつていかれるということです。第三セクターの資本配分は、市・村が三、民間が七となっています。この種の開発でよくみられる「うまみは本州へ、ゴミは地元」にいったところでしょうか。支笏湖は、札幌という大都市に近いわりに、良好な自然環境を維持しています。恵庭岳・風不死岳・樽前山という山々に囲まれ、おちついた湖といえましょう。ヒグマをはじめ、多くの動植物の生活の場でもあります。この支笏湖に都市型レジャー施設をつくり、人を大量に入れることは、とりもなおさず、大きな自然破壊につながります。

美瑛地区中心施設配置図



- ◎この湖は湖岸を切り開き、新しく作られるものです。
- ◎美瑛川の水を利用する計画。こんなこと許されるのかな?
- ◎この湖の中にも多くのコースが計画されています。
- ◎大雪山の湖と湖岸工事。これでは川は死にます。
- ◎現在の建設キャンプ場も予定地に含まれています。
- ◎水質汚染は目に見えています。

◎計画の一部変更

今年に入り、ヤマハが第三セクターからぬけることになり、計画の変更を余儀なくされました。ヤマハの撤退の意図は明らかではありませんが、計画が遅れることは確実です。

さらに、第三セクターも二つに分かれることになりました。白老岳を中心とする開発は、大滝村と民間(道内観光資本)によって、湖畔は、千歳市と日本航空、他数社が加わる予定です。開発の主体は各々変わりましたが、計画そのものは変わらず、早期着工をめざしています。

◎冬季オリンピックの傷跡を再び

支笏洞爺国立公園といえば、一九七二年の札幌冬季オリンピック大会で、男女滑降コースが恵庭岳につくられています。その面積四四・四ヘクタール。国際的イベントが自然保護で大揺れに揺れたことは、まだ私たちの記憶に残るところです。大会終了後、当初の約束どおり、復元作業が開始され、二億円ちかいかお金がつぎこまれましました。しかし、十三年たった今も、無惨な傷跡をさらしています。一度破壊してしまった自然を取りもどすことが、いかに困難かを思いしらされます。

今再び、湖畔でその二の舞いをしようというのでしょうか。

田中 明子

報告一 ナ セ ミ ナ ー 日 高 第 2 回

日高セミナートを終えて

八月三、五日に、現地視察とベテガリ岳山行を兼ねた日高自然セミナートを開催した。非常に多くの参加者が殺到したが、二十人以上の参加は、キャンプ地などの制約もあり残念ながら、先着順に二十人で断った。参加者は東京の親子二名京都一名を含む二十四名で、そのうち、小樽、山田四名、中央山二名、ピオレ二名、山びこ一名で山からの参加者は九名。山行コースのリーダー、サブリーダー、装備、食糧等の準備をこの中の八名で担当し、当日を迎えた。

八月三日、朝九時、札幌駅北口集合、九時半に出発。この日は、ベテガリ山荘までの林道を視察しながら山荘へはいった。

バスの中で、自己紹介と兼ねていろいろと参加の理由等を聞いてみたが、ほとんどの人は日高の山へはいつてみたいという人で、半数は「五十平方ミリ声の買い取り運動」に協力してくれた人であった。そして、ある程度山へいっており

いろいろな人が記念写真をとり合っていた。東京の二人も、京都の人も、六十一才のとうさんも、五十六才のかあさんも、十九才の女子大生も。

案内から参加された方は、次の詩を送ってくれた。

憧れのベテガリ岳の

ヒトクに立つたみんなの顔は

汗と霧と感泣に濡れていた

山荘に戻ったみんなの顔は

安堵と達成と連帯の喜びに

包まれていた。

京都からの参加者は、「比良山の自然を守る会」のバンダナを送って来てくれた。

山荘出発後、東の沢ダムと道路工事の現場を見た。道路がつけられた山肌は崩落し、その石が沢を埋めつくし日高の山中の面影はなかった。この林道は道内でも最もひどい林道だろう。横断道路建設等々の議論は是非ともこの現場を見てから、していただきたい。たとえ、百歩譲って生活道路として必要だとしても、これほど山肌を削って道路を通していいものだろうか。

十七時札幌駅口に到着。帰りのバスでは歌まで飛び出し、六十一才のとうさんが歌いだした。五十六才のおばちゃん、山のかわりになって、もうこれ以上、無用な自然破壊はやめてほしいと訴えた。東京の人たちのために、札幌味の

自信があるが、日高の山へ来る機会がなかなかないという人が多く、この企画を待望んでいたという人ばかりだった。その意味で企画の目標は、すでに半分は達せられていた。

八月四日、朝三時半起床し、五時出発、本峰直下のコートをキャンプ地にし、そこを十一時半に出発、山頂へは、十三時に到着した。キャンプ地までは、全員で来たのだが、山頂へ登る最後の登りで、三十才代の二人が途中下山することとなった。二人とも慣れない荷物をしょったことと、帰りのことを考へてのことだった。健康上は何も問題は認められなかったので、すぐに私が同行してキャンプサイトまで、下山した。

残りの山頂へ行った本隊は、サブリーダー以下十四時半にキャンプサイトへ到着、その日は夕食を作り、そのあと、ガスのあい間から時々見える日高の山々とベテガリ岳本峰を、日のくれるまで二時間余りながめていたのだろうか。おそらく、皆登頂した安堵感と日高の山脈への郷愁からか、参加者にとって印象深い終日を迎えていた。

八月五日、朝、三時半起床。五時出発、途中、国学院大、中央大、横浜の社会人クラブなど四バテイトとすれ違う。ほとんどが、内地からのバテイトだった。日高の山は全国的なんだということを思い知らされるとともに、道内バテイトが少ないことを淋しく思った。

十時過ぎにベテガリ山荘到着、皆、いきいきとしていた。

十選まで紹介された。

とにかくなごやかだった。ペテガリに来てよかった。

この企画が終わって、参加者のうち二人が中央登山に入会し、数人の人が自然保護団体連合の会員になりました。また、感動的な感想文が、一通また一通と寄せられてきています。

現在この横断道路は着工され、これを中止にする展望ははっきりしていません。でも参加者は少なくとも、日高の山が自分にとって本当に大切な山になったこと、そうであればあるほどここに道路を作ることがその山を傷つける結果になるということを、はっきりと知りました。

この企画をやったよかったと思います。

室岡 昇

感想文

参加者の皆様から寄せ

られた数々の感想文の

一部をここに紹介します。

長内 久恵

今回、日高セミナーに参加出来たこと非常に喜んでます。そして、セミナー期間中たいへんお世話になりました。自然保護団体連合の方々、山岳連盟の方々に心から感謝しています。

個人的に言えば、ペテガリ岳山頂に立てたこと、なによりもうれしく思います。自分の足以外に頼るものがないと

塚田 昌克

ペテガリ岳の頂上に立つことは、私の宿題であった。四月に転勤で北海道平取養護学校内ペテガリの園分枝に勤務するようになり、年内にはどうしても実現させたいと思っていた。その目的(宿題)が果たせてこんな嬉しいことはない。霧の中にすっぽり包まれて、見えるものといえば、頂上のケルンや石ころと周囲のハイマツだけだったが、頂上に立った人たちの顔や声は喜びにみなぎっていた。

私は、知恵遅れの子供たちの教育に携わっているが、子供の生命や人格を尊重することと自然を擁護することとは共通していると思っている。今回の、日高セミナーや山行を通して学んだことと目的達成のために努力したことを子供たちに機会をみて教えてやりたい。

リーダー、サブリーダーの方々、大変ありがとうございました。

近藤 秀顕

ペテガリ登山は初心者私にとっては、非常に厳しい登山であったと同時に自分自身の意志で登った以上は他人に

いうことを身にしみて感じました。どれをとっても、初めての経験であり、それがまた不安でもあり恐怖でしたが、それも、無事登山を終えたことで、この上ない感動となつて大きな満足感を与えてくれました。

ペテガリ山荘までの道々日高横断道路のことについて話を聞き、実際にダム建設の現場を見て、人間というものがいかに大きな力を持つてしまったか、またその力を過信し、愚かな行為を重ねているか、痛感しました。道路、ダム建設は私が想像していた以上に大規模に進行していました。無残にえぐり取られた山肌を見ているととても心が痛みます。

この地上には、人間だけが生の営みをしているのではなく、虫や動物、植物など様々な生が存在している、人間以外の生を無視していると人間の生そのものもあやぶまれてしまいうに違いないのです。ペテガリ山荘までの粗末な山道でさえも、どれ程の草や木を犠牲にしているかわかりません。山道脇の草木はそこをゆく車の舞い上げる土ほりりで泥だらけでした。この上横断道路なるものを作れば・・・考えただけでもゾッとします。これ以上の破壊を許してはいけないうちが思いながらも、山へ登りたい、これは矛盾かもしれない。そもそも人が山へ入ってゆくこと自体が厳密に言えば破壊かもしれない、しかし山へ登って素晴らしい自然に出会うことでその尊さや偉大さも実感できると思います。日高セミナーを終えて、大きな感動を覚えると同時にいろいろな事を考えさせられました。

迷惑をかけずに下山する事を第一に考えていたので頂上までは登れませんでした。自分自身にとっては、非常に満足できる登山であると同時に登山に対する厳しさにより以上の素晴らしさを味わいこれを自分の山登りの第一歩として長く続けていきたいと思えます。それから日高の道路建設については、自分としてはこの道路建設自体全く無駄なものであると思っていたので、その確認が出来たと思っております。ただ保護運動の中で第三者的立場にいたるものとしては、反対運動の反対ばかり強調するのではなく、もっと具体的に人間と自然の共存のための最低限の保護が必要である事などを解りやすくアピールして欲しい、今回においても現にあるダム工事の道や林道を使つて、登山をする以上今ある林道自体は必要最小限で認めるとしても、ただこの林道でも多くの自然破壊が起きているのでこれ以上の破壊をしないために日高の道路建設に反対するのか、それとも現状の林道自体も認めないのか、はっきりした主張をしてほしい。

リーダー、サブリーダーの方々に大変御世話になりました、自分としては非常に有意義なセミナー参加でした。

1985 第6回清掃登山の結果

道央地区勤労者山岳連盟自然保護委員会

第6回札幌近郊一斉清掃登山が6月9日に行われました。雨にもかかわらず、一般参加者が多く、市民の中に、浸透してきたことは大きな成果でした。また、小樽の赤岩海岸や、春香山の銀嶺荘など、ゴミの処理に問題のある所はそれぞれ要請書、要望書を送りました。

1985年 第6回 清掃登山、結果

会 名	山 名	会員	一般	合計	ゴミの量	主なゴミ、特徴
小樽労山	赤岩	7	0	7	110kg	ゴミ箱中心に
おこばち	塩谷丸山	9	0	9	28kg	空カン多かった
ピオレ	春香山	30	8	38	30kg	ゴミ投棄(銀嶺荘)
登山倶楽部	手稲山(平和)	8	5	13	42kg	空カン
山彦山友会	札幌岳	20	12	32	16kg	"
中央労山	無意根山	30	3	33	55kg	"
北稜クラブ	恵庭岳	17	64	81	7.4kg	ビニール、紙
みどりの風	砥石山	20	14	34	25kg	ビニール類
ファミリー山岳会	手稲山(西の)	17	5	22	28kg	空カン
ユーパロ山歩会	夕張岳	6	12	18	5kg	"
計		164	123	287	346.4kg	
1984		160	92	252	259.3kg	
1983				202	336kg	

1985年10月20日

編集発行 北海道自然保護団体連合
代表代行 寺島 一男
連絡先 札幌市中央区南11条西8丁目
山鼻レジデンス1008
電話 (011)511-9126
振替口座小樽 1-4071

「支笏湖レジャー基地」について
のご意見をお寄せ下さい。

尚、計画書をご希望の方は、
事務局までご連絡下さい。
コピー代と送料がかかります。